

めでいかすどる *Médicastre*



「 睡蓮と蓮 」

特集企画 新時代！Net4U

鶴岡地区医師会

20 年 8月号

『 プライマリーケアにおける機能性ディスペプシア（FD）の診断と治療 』

大泉胃腸科内科クリニック 院長

大 泉 晴 史 先生

ストレスによって身体諸臓器はさまざまな影響を受けるが、消化器はその代表的な臓器である。このストレス- 脳- 消化管という軸（brain-gut-axis）は、脳腸相関（brain-gut-interaction）と呼ばれ、現在この分野での研究が盛んである。臨床医学において脳腸相関が病態の中心をなす疾患群が機能性消化管障害（functional gastrointestinal disorder：FGID）である。

FGID とは明確な器質的変化によらない消化器症状が長期間持続もしくは再燃・寛解を繰り返す症候群であり、その治療はまだ体系化されていない。

その診断基準が multinational working team の作成した Rome I 基準であり、1992 年に発表され世界で用いられたが、その後の研究成果に基づいて改訂がなされ、1999 年に Rome II、2006 年に Rome III が発表され現在広く普及しつつある。

今回の演題の機能性ディスペプシア（functional dyspepsia：FD）は過敏性腸症候群とならんで FGID の代表的な症候群であり、QOL が障害されることで医療費に及ぼす影響が大きいだけでなく、その経済的損失も無視できない規模になってくると推測されている。

《FD の診断基準》 1) 悩ましい食後膨満感 2) 早期満腹感 3) 上腹部痛 4) 上腹部灼熱感の症状の 1 つかそれ以上存在し、かつその症状を説明しうる器質的疾患を認めない。診断時期の少なくとも 6 ヶ月前に始まり、3 ヶ月間持続していることが要件である。そして FD の下位分類として postprandial distress syndrome (FD の 1) 2)) と epigastric pain syndrome (FD の 3) 4)) がある。

《FD の治療》 FD 発症にはさまざまな病因が相互に関連していることが考えられるが、その中でも胃排出遅延や十二指腸胃逆流症などの消化管運動機能異常が 40～50% に認められ、これが重要な一因と思われる。従って治療の第一選択薬は消化管運動機能賦活薬となる。薬剤としては抗ドパミン薬- メトクロプラミド（プリンペラン）、ドンペリドン（ナウゼリン）、塩酸イトプリド（ガナトン）、セロトニン受

容体作動薬- クエン酸モサプリド（ガスモチン）、オピオイド受容体作動薬- マレイン酸トリメブチン（セレキノン）等があるが、中でも塩酸イトプリド（ガナトン）が有用であると考ええる。イトプリドはドパミン D2 受容体拮抗作用とアセチルコリンエステラーゼ（AChE）阻害作用の 2 つの作用により、消化管運動を賦活し、腹部膨満感や食思不振、悪心等の症状を改善する。また、上腹部症状だけでなく、下部消化管の運動も亢進することが多く報告されており、下腹部症状を合併している FD 患者にも効果が期待できる。さらにイトプリドは CYP による代謝に関与しないので、併用薬が多い高齢者にも使いやすい薬剤といえる。

また、最近、コクラン・システマティックレビューで示されたように PPI による治療が FD に効果ありとする報告が多くみられるようになっている。（否定的なデータの報告もあるが）

FD 患者では、何らかの精神医学的異常を伴っていることが少なくなく、その頻度の点から Depression の存在が特に重要である。

Depression は不眠・食欲不振・意欲の低下・不安などを積極的に問診することにより、その存在を疑うことが可能となる。初診時より機能異常に基づく身体疾患として受容した上で、精神医学的問題点にも着目した心身両面からの治療が必要である。そうしたアプローチ・適切な治療がなされない場合、FD 患者はドクターショッピングを繰り返し、症状の遷延化・難治化につながることになる。FD は一般外来・消化器外来いずれかにおいても、高頻度な疾患であり、初診時より適切な診断、治療がとくに要求されるといえよう。

日時:平成 20 年 7 月 25 日(金)

場所:新茶屋別館ときわ

病院勤務医と医師会との懇談会

石 原 良

7 月 25 日に新茶屋別館ときわで病院勤務医と医師会との懇談会が開かれました。昨年は荘内病院勤務医との懇談会でしたが今年は協立病院をはじめ各病院の勤務医との懇談会としました。

出席者は医師 47 名の参加で、内訳は荘内病院勤務医 26 名（山大医学生一人を含む）、他病院勤務医 6 名、一般開業医 15 名となりました。

はじめに黒羽根洋司に「医療とことば - 方言を話そう」の演題でご講演をして頂きました。庄内人の気質が【みじょけね】という言葉に代表される思いやりであることや北国の方言は、寒さから口を大きく開けられないため、どれも短い言葉で意思疎通が出来るようになった事、医療現場で患者さんとのコミュニケーションの大切さなど大変興味深いものでした。

続いて協立病院副院長堀内隆三先生の乾杯で懇親会となり、和やかな時間を過ごしました。最後に荘内病院副院長伊藤末志先生の締めでお開きとなりました。

その後は二次会、三次会に行かれた先生方も多数いたようでした。

今回は病院の夏休みが始まった時期であったことや他の研究会と重なったこともあり、昨年より参加者が少なくなりました。

当地区の医療連携にとって勤務医と医師会の顔の見える関係は大切だと思います。来年は日程や話題提供などについてさらに検討して有意義な会にしたいと思います。





納涼ビアパーティー

日 時：平成20年8月1日(金) 19:00～
場 所：東京第一ホテル鶴岡

去る8月1日(金)、恒例の納涼ビアパーティーが東京第一ホテル鶴岡にて開催されました。今年は「医師会オリンピック」をテーマに、総合司会の中村秀幸先生の進行で、石原良先生の開会挨拶、中目千之会長による聖火ランナーのパフォーマンスと挨拶で会場が沸き上がり、伊藤末志先生の乾杯で宴が始まりました。

健康管理センター、湯田川温泉リハビリテーション病院、みずばしょうの新人職員による余興で会場は大いに盛り上がり、その後は、大抽選会&ラムネ早飲みゲームが行われ、上位景品を手に入れるべく熾烈な争いが繰り広げられました。

大抽選会の勢いをそのままに、役員の先生方による「サライ」の合唱、後半は会場全体がひとつとなって大合唱を奏で、会場中に歌声が響き渡りました。

最後に、横山靖先生の閉会挨拶により閉宴となりました。来年も多くの方から出席いただき、会員と職員とが交流を深められればと思います。
(実行委員長 難波 崇)





初めて参加するビアパーティーは、楽しみな気持ち半分、余興がうまく出来るかという不安な気持ち半分で当日を迎えました。

余興の時間が近づくにつれ緊張は徐々に高まり、ステージに上って会場を見渡した時には予想以上に大勢の人を前にして緊張は最高潮に達していました。しかし、音楽がかかって踊り始めると、緊張はしつともその場を楽しむことができました。また、この余興のために新入職員で集まって練習を重ねたことで、互いにきずなを深めることができ、とても良い経験になりました。最後に、ビアパーティーを企画、進行して下さった実行委員の皆様、お疲れ様でした。そして、楽しい時間をありがとうございました。

健康管理センター 検診課 橘 咲希

特集企画 新時代！ Net4U

Net4U 特集 ⑩

データからみる荘内病院の Net4U 状況

鶴岡市立荘内病院

地域医療連携室 叶 野 明 美

突然、伊藤連携室長より「叶野さん、めでいかすとする用に Net4U の原稿書いてね。」と、いつものやさしい笑顔からの命令を頂戴し、私は頭を抱えてしまいました。

Net4U に関して、いろいろな角度から錚錚たる皆様からの素晴らしい特集企画の掲載記事は、すでに全てを書き尽くしており、知識も経験も乏しく文章を書くのが苦手な私にとって、原稿を埋める事は筆舌にし難いくらい辛いことでした。そこで、事務屋らしくデータから当院の状況を紹介することでご勘弁願いたいと存じます。

現在、地域医療連携室では Net4U に関する業務として、受付・新規患者登録・外来診察予約・受付情報の当院医師への連絡調整等を行っております。表をご参照していただくとおわかりのとおり、昨年度からの利用件数の大幅な増加とニーズの多様化に業務は煩雑化しております。また、この度、当院電子カルテ端末から Net4U が活用できるようになれば、今後ますます当室が果たさなければならない役割は大きなものになるのではないかと自負しております。

地域医療連携室が、この地域で大切に守り育ててきた Net4U の第二期黄金期をむかえるため（中目会長の文章無断借用）の一助となり、縁の下の力持ち的存在になれるようがんばりたいと思います。

表1 依頼内容別件数

依頼内容	14 年	15 年	16 年	17 年	18 年	19 年度
情報提供	33	52	81	46	24	148
外来診察予約	86		70	76	92	73
救急センター 受診	9	2	32	19	27	45
情報提供依頼	5				15	12
受診報告書				13	3	19
当日紹介			11		6	10
診療情報提供書						8
紹介状の返事					4	22
検査依頼			29	3		10
その他	4	1	1	4		
合 計	137	55	224	161	171	347

表2 受診科別件数

受診診療科	14 年	15 年	16 年	17 年	18 年	19 年度
救急センター		2	28	23	23	80
消化器科	21	7	19	18	14	41
内科	67	26	37	17	24	34
脳神経外科	3		4	9	14	25
呼吸器科	18	5	7	7	9	30
整形外科	1		15	7	10	17
外科	1		4	5	5	16
循環器科	21	3	27	24	12	18
眼科			9	7	8	14
神経内科	2		6	8	6	12
泌尿器科	2		10	5	8	9
心臓血管・呼吸器外科			2	6	6	9
産科・婦人科			3	2		5
耳鼻咽喉科			5	6	6	3
皮膚科		8	3	1	5	3
形成外科		4	7	3	3	2
小児科	1		3	1	1	2
歯科口腔外科			1	1	3	3
小児科外科						1
リウマチ外来						1
心療科			1	1		
放射線画像センター			33	10	14	10
地域医療連携室						12
合 計	137	55	224	161	171	347

表3 年度実績

年度	件数
14 年	137
15 年	55
16 年	224
17 年	161
18 年	171
19 年度	347
20 年度	165

表4 当院 Net4U 新規登録患者数

内容	19 年度	20 年 6 月末
大腿骨パス患者の登録数	144	64
その他登録数	106	15
計	250	79

(6 月末現在)

影で支える「Net4U」

鶴岡地区医師会

庶務課 遠 藤 貴 恵

Net4U が稼働を始めて早 6 年と 8 カ月。トラブルの少ない頑丈？なシステムで、数日間も止まってしまったなどということがなく過ぎてきた 6 年であったと思います。

その反面、多かったのが使う医療機関側のトラブル。稼働当初は、ダイヤルアップ形式でしたので、ルーターの設定ひとつで課金制限がかかり、接続できず。そんなこんなを繰り返しながら、VPN の導入。ブロードバンドも、ADSL から光へと大きく変わり、数少なくなった接続上のトラブル。場所によっては、一度行けば、半日掛かり、それでも終わらず日を改めて、また伺う。従業員の方ともすっかり仲良くなり、いろいろ御馳走になってきてしまう始末。

Net4U は、インターネットにさえつながっていれば、Netscape と簡単なプラグインをインストールすればそれだけで接続が可能となります。ただし、その Netscape が曲者だったりするわけです。

たとえば、Windows のログインアカウントが日本語文字だったりするとインストールすらできなくなってしまふなど。インストールは出来たものの、いざカルテにログインしようとする、Netscape が起動しなかったり、もう如何ともしがたい状況に陥ることもありました。でも私としては根気よくやるしかありません。作業をしているそばで、医療機関の先生やスタッフの方々が、じーっと作業状況を見えています。緊張しますね。さっさと接続できなくて、申し訳なくなります。

ただ、ここ近年はこのようなトラブルも減りましたが、最近では、ストローハット鈴木さんにサポートを助けて頂いているので、大変助かります。

昨年の 8 月には、サーバをリプレースし、心なしか、動作的にもスピードアップし、何だか、使う側も楽しくなってきたような予感。

あれから、1 年が経過し、今度は荘内病院様の電子カルテ端末更新を機に、なんだか Net4U も共存していただけると。

まだ気が早いのかかもしれませんが、夢にまで見ていた、荘内病院の先生方が Net4U を使ってくださいることになり、私の心は一気に弾みを見せている。

と、同時にやはり使えば使うほど登録に際しての問題がポツポツ出てきて、荘内病院連携室の叶野さんとは毎日何度も電話でやり取りしています。一つずつ整理してより良い使い方ができるようにサポートして行きたいと考えております。頑張りましょう！叶野さん。

また、同じく協立病院様でも 30 数台の端末に Net4U がインストールされ、こちらもこれからの運用等を含め、連携室の瀬尾さんをサポートして行きたいと思います。

3 年前、東京第一ホテル鶴岡で（当時）国際医療センターの秋山先生、札幌医科大学の辰巳先生などをお招きし、Net4U などの市民公開シンポジウムを開催した時、聴講者の 80 歳ぐらいのおばあちゃんが、マイクを両手で握りしめて「鶴岡の地でこんなに素晴らしいことがやられているのは知らなかったし、今日からでも自分の生活習慣を変えられるところは変えよう」と仰っていました。この Net4U がこの地鶴岡であらたに日の目を見たと感じた 1 日でした。あのおばあちゃんの顔、今でも忘れられません。

これから、Net4U がもっともっと使われる日がきて、多くの市民がそのように感じてくれる日が必ず訪れると信じています。

私どもは、引き続き Net4U を影で支えて行きたいと思います。触ってみたい、興味があると思われましたら、医師会庶務課までぜひご一報ください。

私のお勧めの店 その34

横 山 靖

今、私には食べたいものがある。それは香川県丸亀市にある『一鶴』という店の骨付き鳥である。料理はいたってシンプルで、骨付きのモモ肉を鳴門の焼き塩、胡椒、ガーリックで下味を付け一晩寝かせ、300度の鉄窯でじっくり焼き上げるといものである。焼きたてのジュージュー音がする骨付きのモモ肉に喰らいつき、キンキンに冷えた生ビールをノドに流し込む・・・、想像するだけでヨダレがでる。

しかし、丸亀は遠い。こういう有名店はたいてい東京に支店があるものだが、なぜか横浜や大阪にしかない。残念である。

夏のくそ暑い時期には、生ビールに合わせるのは太った豚ではどうにも暑苦しい。やはり、スッキリした鶏でなくてはダメだ。丸亀は香川県だが、隣の愛媛県には今治市というところがある。ここは焼鳥日本一と宣伝するくらい鶏料理は有名ならしい。

ところで何が日本一かというと、人口に対する焼鳥屋の店舗数が日本一ということらしい。まあ、それだけ焼鳥が愛されているということで、そしてここ今治の名物が皮焼きである。普通の焼鳥の皮が串に刺し網で焼くのに対し、今治風の皮焼きは鳥の皮を鉄板でカリカリになるまで焼きあげるのである。この今治風鳥皮焼きが、鶴岡で食べれるのである。それが今回紹介するお好み焼き『さぼ.』である。

なぜ焼鳥なのにお好み焼き屋なのかというと、ずばり鉄板で焼くからである。これが今治風スタイルであり、これを具現するには、なるほどお好み焼き屋がピッタリなのである。オリジナルの今治風はカリカリの皮を甘辛く味付けするらしいが、『さぼ.』の皮焼きは、シンプルに塩で味付けしてある。しかし逆にこれが鳥皮のパリパリ、カリカリと絶妙に合い、鳥の香ばしい味わいと生ビ

ールとの相性は抜群である。まったく、鳥の皮とはほんとうに旨いものである。もう身の部分などいらないという気持ちになる。鉄板で十分に脂を落としているし、焼鳥の皮のクニクニした感じが苦手な女性にもぜひ試してもらいたい。この今治風皮焼きにはクニクニした曖昧さはなく、竹を割ったようにカリカリ、パリパリしていて、まさに爽快である。そして、私は最後にこのお店のプレミアム・アイスというソフトクリームを食べ、めるのである。

ちなみにこのお店のマークはサボテンであり、サボの次の.を読み、サボテンと読む方がいらっしやるようだが、それは深読みのし過ぎで、店主によれば素直にサボだけで良いとのことである。

もんじゃ焼 鉄板焼 居酒屋 さぼ.
住所：鶴岡市本町1丁目7-30
TEL：0235-25-5700



マイペット&マイホビー

- 第55回 -

800mとアイスホッケー

島田高志

大学に入学したのは1976年、それまで何もスポーツをしてこなかったのが、体力をつけようと思って陸上部に入りました。折りしもその年はモントリオールオリンピックの年でした。その年代を知る人は先ず第一にナディア・コマネチを思い出すでしょう。しかし私の頭に焼き付いたのは、キューバのアルベルト・ファントレナという800mの選手の走りでした。一步が3mという驚異的なストライド走法（今の私では三段跳びをしても、9m跳べないでしょう）芸術的なフォームでした。単純で影響を受けやすい私は、最初の東医体で800mに出る事にして、ストライド走法を追求しました。脚が長くてバネのあるキューバ人の真似を胴長短足でバネのない日本人がやってどうなるというのでしょうか！顧問から「君の走りはピョコタンピョコタン跳ねるみたいで、無駄が多いねえ。」と言われました。本当の馬鹿です。ファントレナがカッコ良くて憧れた、というのがその後30年以上におよぶランニング中毒の始まりです。「マゾだ、異常だ」とか「頑張るねえ、根性あるねえ。」とかのお褒めの言葉を頂くのですが、ただの依存症、中毒なのです。ハンフリー・ボガードのタバコの吸い方がカッコ良くて影響されてニコチン中毒になったとか、ユマ・サーマンが指先に粉を乗せて鼻から吸い込む姿が色っぽいからコカイン中毒になった、とかいうのと大差ありません。ところで、山形では冬は走れません。当時町中にさびれたスケート場があって（看板だけは「東北一の氷質」とか出て、「おまえのここはおいしいカキ氷でもあるのか」と突っ込みたくなる所でした。）シーズン券も安いので、スケートをして冬場のトレーニングにしていました。毎日のようにスケート場に通うのを、またも「熱

心、根性がある。」と誤解され、山形の社会人のクラブチームに誘われアイスホッケーを始めました。当時は山形大にアイスホッケー部はなく、そのクラブチームでやってた山大生4人で大学のチームも作り始めたので、私が山大アイスホッケー部の創始者の一人と言う事になります。サッカーとかバスケットとかと比べて、この競技はTVなどで見ている限りでは何かチマチマ動いている感じで、展開がわかりにくくて面白く無いかも知れません。しかし実際にやってみると、こんな面白いスポーツはありません。スピード感も違いますし、バックですべりながらストップしたり、ターンしながら0~360度の範囲で自由に方向を変えたりする、といった地面の上ではありえない動きを駆使できるという楽しさがあります。

大学を卒業し、陸上もアイスホッケーも一時引退になった筈だったのですが、鶴岡に来てから、「べにばな国体」のあと国体で使った屋外リンクを鶴岡市で払い下げ受けて、小真木原でスケートが出来ようになり、またアイスホッケーを始めました。屋根がないので吹雪の時は「寝るな、寝たら死ぬぞ」と声を掛け合いながら、雨の時はパックで水しぶきをあげながら、という劣悪な環境です。40歳代後半になって以後、最年長になってしまい、チームには高校生、山大農学部の学生など若い人も多く、夏場の体力維持が重要になりました。球技など全般に思うのですが、「ボール（パック）を持って攻撃、あるいは攻撃する相手をマークしながら全力で動く」と、「ゲームの流れを見ながら流す」の繰り返しです。そういう動きに必要なのは長距離を一定ペースで走るような持久力でなく、インターバルトレーニングの持久力です。そう考えて、夏は陸上競技場で

「200m ダッシュ 200m 流す」インターバルを中心になっていました。これは 800m でも一番有効なトレーニングであることから、また段々800mをやってみたくなり、50 の坂を越えたのをきっかけに、今年からマスターズ陸上に参戦することにしました。初めて参加して、言わば「ジジババの運動会」みたいなものですが、すごい年寄りが恐ろしいスピードで走ったりするので、なんか妖怪の世界のようでもありました。5 才刻みでクラスが分かれていて、50 歳代前半は自分一人、大会では皆一緒に走るのですが、自分より年下には負けたが年上には勝ったという、まあ、可もなく不可も無い結果でした。一人だけでも写真のように「M50 (50～54 才の部) 一位」の賞状が貰えるのがいい所。私も妖怪のようになって 60～70～80 と相対的なレベルを上げていって、将来何十年後からでもいいから世界マスターズでファントレナと対決するのが夢です。



地域医療連携部門紹介

宮 原 病 院

地域医療連携担当

石 川 恵美子

鶴岡地区医師会会員の皆様、職員の皆様には日頃よりお世話になり、紙面をお借りしまして感謝申し上げます。またこの度は、このような機会をいただきありがとうございます。

当院は、昭和47年外科・小児外科にて開院、その後昭和58年より内科を開設しました。現在一般病床39床（外科・内科混合）、医療型療養病床32床を有する病院であります。診療内容は消化器科、一般内科、外科の診療の他、糖尿病クリニカルパスによる教育入院、糖尿病教室の開催、禁煙外来、経鼻内視鏡の導入、大学病院と連携による消化器外科手術など多岐にわたります。地域の皆さまから満足していただける、又信頼される医療を提供し、「目配り・気配り・心配り」をモットーに職員一同業務にあたっております。

現在の宮原病院の特徴は、大きくあげて二つあります。一つは、荘内病院、協立病院などからの転院の受け入れ。もう一つは、診療所の先生からの急性期の紹介患者さんの受け入れで、大きな病院と診療所との中間的なパイプの役目を担っていると考えております。又、最近の医療と介護福祉の連携の要望から、平成18年12月にデイケアとショートステイ利用を開始しました。それにより一般病床や医療型療養病床からの退院後の訪問診療・訪問看護など在宅支援も可能になりました。

しかし、このような取り組みの中で最近困難を感じていることも少なからずあります。宮原病院へ受け入れた患者様の退院後の受け入れ先が中々決まらなかったり、又、悪性疾患のため在院日数が長期化する傾向にある事です。もう一つは、独居の高齢者が多い為か、治療費の未収金が発生

している事例が以前より多くなった事です。お金の問題はデリケートな為、どこにご相談すれば良いか悩んでおり、病院としても解決策がなく困っております。

当院ではまだ医療連携室が独立していない為、紹介入院や転院に関しては病棟師長の石川と医師がタイアップしてあたっております。また紹介や医療相談全般を、総看護師長の五十嵐と医事課長の相馬も一緒に担当しております。それぞれが兼務であるため、日常業務に追われ相談や検討・電話連絡などの時間が中々取れず、事務連絡がおそくなってしまいう事が悩みの種となっています。

現在、在宅医療が勧められておりますが、家族状況・諸事情により在宅困難で施設入所を希望される方が年々増加しています。施設入所までの間、当院では療養病床で対応していますが、今後介護施設との連携も大変重要になってくると考えております。介護部門については解らない事が多いのですが、「地域医療連携の会」に参加させていただくようになり、会員の皆様のお顔を覚えながら情報交換させていただけるので、大変心強く思っております。

本年よりは、緩和ケア・脳卒中の連携パスも始まり、これからますます地域での連携が重要となってきています。今後ともよろしくお願い致します。



表 紙

「睡蓮と蓮」

林 順 一

昼下がりの大山下池。手前に浮いているのが紫紅色の睡蓮。未の刻（午後2時）頃に開花するので未草とも云われる。

睡蓮の 一花一花 真昼かな 上村占魚

一ならび 睡蓮の葉の 吹かれつつ 星野立子

奥一面に広がる蓮の群生。芳香あるすがすがしいこの花は、その姿から漢詩に詠まれ、君子花とも言われるほどである。

土手に立つと、群花の強いかを含んだ風が吹いて来て、身体に浸透する。池の奥の森近くで、冴高い水鳥の一声。あとはまた花とのみの静謐。

ゆるやかに ひろがへりつぐ 蓮かな 軽部鳥頭子

西方へ 日の遠ざかる 紅蓮 野澤節子

一面に 蓮の浮葉の こまこまと 高浜虚子

参照：日本大歳時記（講談社）

～ 編 集 後 記 ～

小野 俊孝

連日の猛暑のニュースが多いこの頃です。高校野球が真っ盛りで、炎天下でがんばる姿は、感動を呼びます。北京オリンピックも開会しました。楽しい期間が始まります。

学校が夏休みに入ると小児科の診療所はすっかり暇になってしまいます。裏庭の雑草は勢いを増し、小さい菜園もうっそうとして、何をどこに植えていたか見分けがつかなくなりました。一方早朝は過ごしやすく、ときどき散歩に出かけます。その折に、街角にあるタバコの自動販売機の横に張り紙がありました。

曰く：鶴岡市にはタバコ税が「8億1千200万円（2005年）」納められ、暮らしに大きく

役立っております。」 東北タバコ販売協同組合連合会

未成年者の喫煙防止のため、タバコの自動販売機に成人識別機能がつけられ、「タスポ」なるカードがないと買うことができず、売り上げが減少しているとのこと。タバコの生産や販売をしている方々には問題なのでしょう。

カードで未成年者の喫煙防止ができるとは思えませんが、タバコの販売量が減少するのは結構なことではないでしょうか。

まして喫煙やタバコの販売が「地域の暮らしに大きく役立っている」かのごときお言葉はとても納得できるものではありません。

喫煙者本人や、周囲の人への健康被害とそれに伴う経済的損失は「地域の暮らしに大きな損害を与えている」のではないのでしょうか？

防煙、禁煙、卒煙などに関わる活動の重要さと、行政の取り組みがさらにすすむことを期待します。暑い中ですが、おいしいビールを励みに、がんばりたいものです。

編集委員：中村秀幸・伊藤末志・福原晶子・斎藤憲康・小野俊孝・渡部隆二

発行所：社団法人鶴岡地区医師会 山形県鶴岡市馬場町1-34

TEL 0235-22-0136 FAX 0235-25-0772 E-mail tsurumed@mwnet.or.jp

URL <http://www.mwnet.or.jp/~tsurumed/>

印刷所：富士印刷株式会社 鶴岡市美咲町27-1 TEL 22-0936(代)